

第2回

在宅医療を支える 多職種学習会

2022.12.13(火)

18:30 - 20:30

地域一体型

「高齢者」の

食支援

～「食べる力」を高める

多職種連携を構築する～

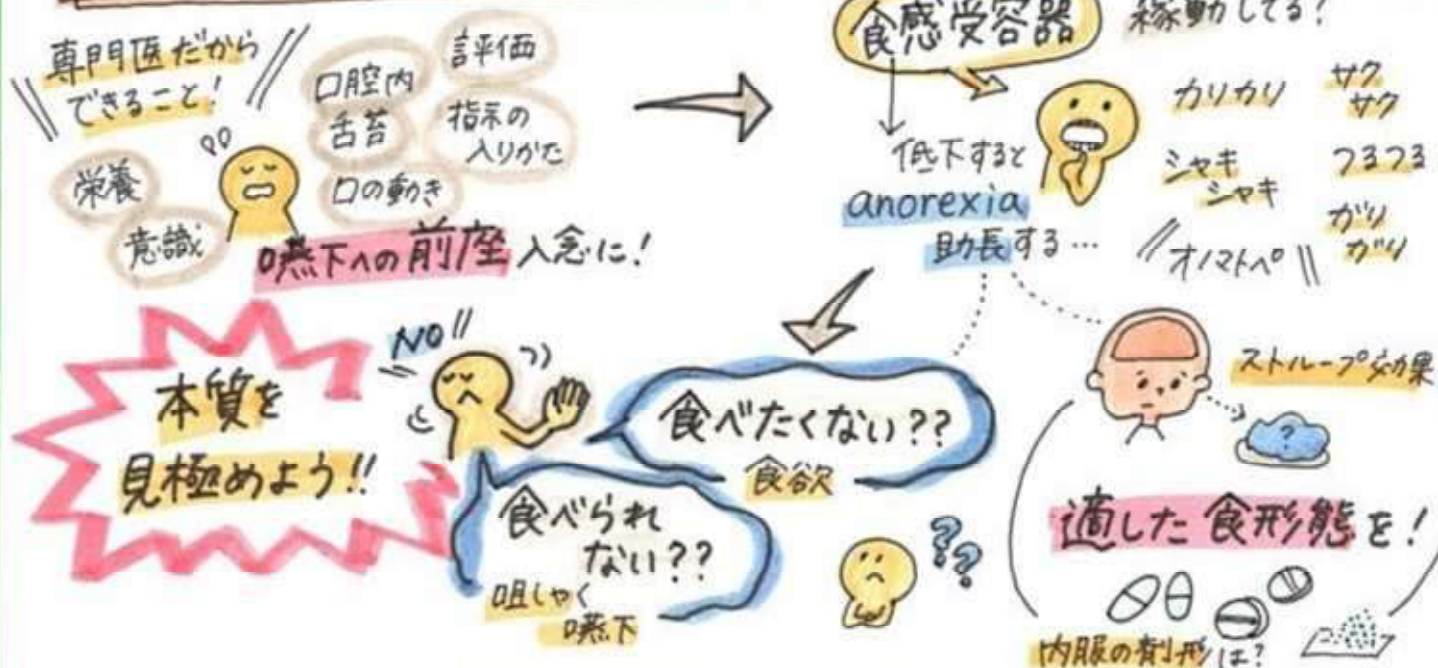
講師

公立能登総合病院
歯科口腔外科部長



長谷 剛志さん

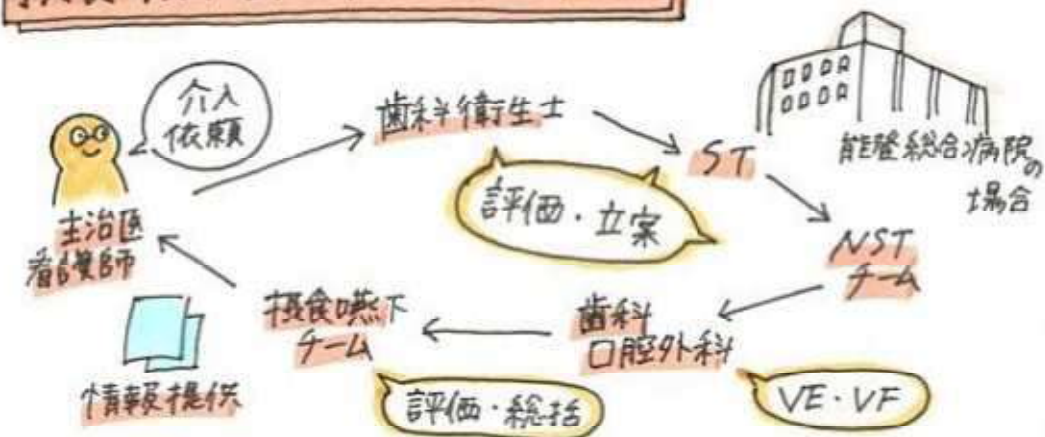
歯科が「食支援に介入」すること



咀嚼・嚥下は「ワンポイント」に過ぎない



摂食嚥下診療への取り組み



2011年~「食力の会」発足!!



事例紹介

つながりマップ

事例1 ALS患者女性
夫もチームに!
嚥下機能報告と食支援計画書
主治医・CMと連携

事例2 95歳 女性
「おいまで食べてほしい」
娘の願い...
麺を「麺」として「食べる!」

事例3 90歳 女性
アルツハイマー型認知症
本人直筆の手紙 娘号泣...
「いつもおいしいおかずありがとうございます」

事例4 68歳 男性
脳幹梗塞
「食べたい本人 チームで支援!」
「食べたい! 願いを叶える!」

まとめ

人間の「食べる」には...



食支援の「目的」ふり返り



Q: 口空清掃・保湿
順番は?

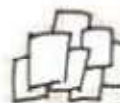
A: まずは加湿!
順番は個々に合わせ



〇 嚥下を焦らず!
「前座」を大切に。

Q: 食支援リテラシー
高めたい!
専門職の観点を

A: 一方通行にならない
「自分ごと」にする方法



「イートミルカード」

事例を基に

「かにやしろまびノート」



「かむかむチェックシート」



講評

(一社)
苫小牧市
歯科医師会
会長 阿部 雅人さん



Q: なかなか姿勢保持
難しい人への対応は?

A: 「食べる姿勢」大切だが
「食いたい
もの」も
大切にする!



嚥下ができない

↓
自覚症状ない人が多々

苫小牧市も

「食支援の会」どんどん活動
していきます